同窓会報 興學

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局

小国高校 昭和42年度卒 同級会

平成21年10月11日~12日

受付の美女

参加された恩師

小国高等学校 存続は町民の大きな願い

同窓会長
佐藤祐一
昭和三十一年度卒(第八回)

県教委は去る一月二十八日、諮問機関「西置賜地区の県立高校の再編整備に関わる検討委員会」から「三校か二校が望ましい」とする報告の答申を受け、山口教育長が今後の計画を慎重に考えていきたいと述べられました。このことから、高校再編の中で本校の存続運動も大きな岐路に立たされます。

昭和二十三年四月、地域の大きな願望であった、高等学校の設置が認可され、小国町の子供達にとって何にも代えがたい喜びであったと思います。以来、六十一年間にわたり時代の変遷と共に学科も増減しながら、六千名を越す卒業生を町内外に送り出すことになりました。

高校設置を実現させてくれた当事の教育関係者、設置運動に関わった方々に心から感謝したいと思います。

母校も先生方の献身的なご指導により、生徒諸君のやる気が向上し学校全体の活力となり、国立大学や短大・専門学校等への進学、県内外への就職の面で大きな成果を遂げています。

今私たちを取り巻く環境は、アメリカのリーマンショックに端を発した金融危機が身近に押し寄せ、本町経済の大動脈であるコバレント・マテリアル㈱等に大きな影響を残しており、個人の収入が減り、子供の教育にも大きな痛手となっています。

このような状況の中にあって、優秀な生徒さんに本校に入学してもらえるような、環境を整えていきたいと思います。

セミナーハウス（興学会館）老朽化により解体

ごあいさつ

校長　齋藤裕司

同窓会の皆様には、母校の教育活動と後輩の育成のため、物心両面にわたり格段のご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度は昨年の六十周年の節目を超え、新たなスタートの年となりました。

生徒会スローガンの「歩みを止めずに」には、本校の良さを引き継ぎ発展させようとする生徒たちの力強い決意が込められています。

皆様の励ましのお陰で今年も生徒たちが各方面で多くの活躍が出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、老朽施設として長らく閉鎖しておりましたセミナーハウス「興学会館」について、今年度解体工事の予算化が図られ、年度末までに解体整地されることとなりました。

興学会館は、遠方からの通学生のために、昭和三十六年十二月に寄宿舎として設置されたもので、上杉鷹山公御書「興学」を拝借して「興学寮」と命名したのがはじまりです。昭和四十八年一月に現在の建物に改築され、昭和五十八年三月に閉寮されるまでの間、町内のみならず、新潟県や置賜一円から本校に学ぶ生徒たちが寝食を共にした思い出深い学舎です。これまで、多くの小国高生を温かく育んでくれた興学寮に、感謝を申し上げます。

備品をみがいて学校へ

閉寮後は、セミナーハウス「興学会館」と名称を変え、生徒の宿泊研修や合宿のほか、同窓会の会議等に活用してまいりましたが、老朽化により建物の傷みもひどく危険になったため、久しく閉鎖しておりました。

このたび解体の運びとなり、使用可能な机・椅子・戸棚などを、在校生の手できれいにし、校内に運び込んだところです。ここで学んだ卒業生の志を受け継ぎ、大切に使わせていただきたいと思います。

同窓生皆様の一層のご活躍とご健勝をお祈り申し上げますとともに、後輩へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

創立記念式典

講師として招かれて

安部充宣（昭和五十八年度卒）

感動した創立記念コンサート

私は高校卒業後、地元企業に就職し、働きながら趣味である音楽活動を行い、日々の暮らしの中で感じたことを唄にして、コンサート等で発表してきました。

今回は、「シンガーソングライター」としてステージに立ち、演題「ライブ＆トークkokuhaku小さな小さな物語」と題し、発表させていただきました。

「記念式典で講師を。」とのお話を頂き、とてもうれしくすぐにお受けしました。母校での講演は、シンガーソングライターとして活動している自分の、ひとつの「夢」でもあったからです。しかし、私が在校生に何か感動を与えることが出来るのか、悩んだ末、断ることにしました。

次の日、断りの電話を、同窓会事務局の駒澤さんにしました。しかし、駒澤さんはそんな私に、「安部君でいいんだよ。」と言ってくれました。そして、「今回がラストチャンスかも。やってみろ。」と背中を押してくれました。「現在の学校の現状や生徒の様子等を聞き、生徒が元気を出してくれれば良いと思う。」そんな話を聞きながら、一度は断念すると決めた記念講演に、再度チャレンジしてみようと決めました。

当日は、悩んだり、苦しんだり、時々笑い歩んできた、自分の小さな小さな物語を、自分の唄とともに、告白させてもらいました。

学校の今

Present of Oguni SHS

小国町で推進している「小中高一貫教育」が九年目を迎えました。

これまでの成果を踏まえてさらに発展させるべく、様々な取り組みを展開してまいりましたが、その主なものを紹介いたします。

◇高校と大学の連携

●一学年全体で取り組む「地域文化学」は、六大学七名の先生方のご指導をいただきながら研究を進めました。仕上げの段階で新型インフルエンザの影響を受け、予定変更もありましたが、十一月二十日の町民報告会で全ての班が堂々と発表することが出来ました。その成果は全体のまとめ『**地域文化学研究報告書**』の他、『**Oguu第二号**』『**小国の伝承歌**』等として刊行されました。また、「小国の昔物語」班は國學院大學・高校生新聞社主催第五回地域文化に学ぶコンテストで佳作となりました。

●山形大学工学部との連携による研究活動には三年生四名が参加し、夏休みの五日間、それぞれのテーマで研究活動を行い成果を挙げました。

▶アスモ内に校地内のブナの木を利用した学校製作の掲示板が設置されました。

◇情報教育と資格検定

この分野でも積極的な挑戦が見られました。ワープロ検定一級三名、簿記検定一級一名、二級一名、漢字能力検定二級二名等の合格者を出しております。今年新たな分野として危険物取扱者試験乙種四類に四名が合格しました。

◇国際理解教育

残念ながらこの分野は、新型インフルエンザの影響を大きく受けてしまいました。二学年のアメリカロサンゼルスへの修学旅行は国内（大阪・奈良・京都）への変更を余儀なくされました。ユニバーサルスタジオ・ジャパン（ＵＳＪ）でアメリカ文化の一端に触れた後、古都の風景を堪能しました。

短期留学については、秋季のコロラド州ミッチエル高校への派遣を見送らざるを得ませんでした。来る三月のロサンゼルスベニス高校への派遣の準備を進めているところです。

（教頭　浅黄喜悦）

日本ふしぎ発見！（大阪・京都・奈良）

二年二組　齋藤　陽

今年の修学旅行は、インフルエンザの影響で、関西方面に行くことになりました。本来であれば小国高校の修学旅行は、アメリカに行くことになっていたので、少し残念でしたが、国内旅行でも十分に満喫でき、学んだことも多かったと思います。

私がこの修学旅行で印象に残っていることは、ＵＳＪと金閣寺です。

新潟空港でまさかの飛行機トラブルが発生して、楽しみにしていた海遊館に行けなくなり、私たちはとてもがっかりしました。しかし、そのおかげでＵＳＪでの時間が延長されたので、楽しく過ごすことが出来ました。思い出に残るようにと、友達と乗ったジェットコースターでは、皆が失神しそうになり、決して忘れることの出来ない思い出になりました。

修学旅行中は、多くの寺を見学しましたが、私は金閣寺が一番心に残っています。金閣寺は、今まで写真でしか見たことがなかったので、実物を見たときは素晴らしさに感動しました。実際には遠くからしか見られませんでしたが、水面に写る金閣寺の姿も迫力がありました。

今回の旅行で、日本の歴史について理解を深めることが出来ました。これからの生活にも活かしていけたらいいと思います。

USJで皆さんと

アメリカ短期留学生報告

ベニスハイスクール

短期留学に参加して

三年二組　佐野友莉那

現地アメリカに着いて最初に感じたことは、この短期留学を甘く見過ぎていたということでした。ホストファミリーの人たちと殆ど言葉が通じず、ぎくしゃくとした感じで接していたと思います。ホームシックにかかり、泣いた事もありました。

しかし、ホストファミリーの皆さんは、そんな私をとても気遣ってくれました。移動の疲れが取れ始めてからは、私に少しでもアメリカの生活に慣れてもらうように、日本では体験できない様ないろいろな所に連れて行ってくれて様々なものを見せてもらいました。日を追うにつれアメリカの生活にも慣れ、楽しみも増えていきました。

クラスメートとのふれあい

私がお世話になったホストファミリーの両親はメキシコ人で、アメリカにいながらメキシコのことを多く知りました。メキシカン通りに連れて行ってもらった時のことが一番の思い出です。あるお店ではメキシコの民族衣装を扱っていて、試着させてもらいました。「とても似合います。」と言ってもらえて嬉しかったです。

アメリカには多くの国から移民した人達がいて、国際的な国だと思いました。

様々なアメリカでの生活習慣の違いや、学校での授業の様子、学校生活など、多くの体験をさせていただきました。

短期留学からもう少しで一年になりますが、ホストファミリーの温かさが忘れられません。またいつか会える日を待ちながら、家族の人たちが元気で暮らしていることを祈ります。

短期留学の思い出

三年一組　今　那月

私は短期留学に行ってかけがいのない思い出を手に入れました。

◀ホストファミリーとの一時

アメリカに着く前は、初対面で言葉も通じない人と二週間も一緒に過ごす事に不安を感じていました。

しかし、到着してみたらホストファミリーが私を温かく迎えてくれました。

「私たちは日本語を話せるから、分からないことがあったら何でも聞いてね。」と優しく接してくれたので、とても安心することが出来ました。

そして、実際にベニス高校で授業を受けてみて、生徒たちはとても日本人が好きで積極的に話しかけてくれたことが、とても嬉しかったです。教室では、みんな授業に興味を持ち、一生懸命挙手発言をしている姿を見て感心しました。私は、授業中にこんなに積極的に挙手をしたりしたことがあっただろうかと考えさせられました。

休日には、ホストファミリーの男の子が他校でバスケットボールの試合があるというので、ファミリーと男の子の応援に行きました。会場である高校の体育館に着くと、沢山の日系人がいて、日系人のチーム同士の試合だと知り驚きました。様々な人種がいるアメリカだからこそ出来ることで、日本では見られない光景だと思い、うれしくなりました。

このような素晴らしい経験が出来たのも、小国町、小国高校、後援会や同窓会の皆さんのおかげだと感謝しています。本当にありがとうございました。

これからこの経験を後輩たちに伝えて、短期留学の意義や素晴らしさを知ってもらいたいと思います。

恩師回想

教職のすべてを母校で

馬場　髙子 先生
昭和三十九年～平成十三年
（通算二十八年間）

昭和三十九年四月、ジャケットに長靴を履き新任式を迎えました。学校火災に遭遇したのです。

復旧作業と生徒への指導で先生方は、少しの時間も休むことなく動かれていた姿を思い出されます。その日から三十八年間、退職するまでの教員生活のほとんどを、小国高校の保健体育の教師としてお世話になりました。

昨年秋、初めて担任をした卒業生の還暦を記念して行われた同級会にお招き頂き、深夜まで当時の思い出話や、現在ご活躍の様子等を話し合った頃のことを紹介することにします。

新採教師の私は毎日右往左往しながら教師たるべき姿勢を身につけようと努力していた時代でした。

火災のショックもようやく収まりつつある頃、今度は新潟地震です。大きな揺れと驚きの悲鳴が交差しました。恐怖で引きつった顔や、泣き出してしまう女子生徒に自分はどんな対応が出来たのだろうかと考えました。

その後、東京オリンピックが開催され、当時の坂本校長先生が、体育教師たるもの世紀の祭典を観ずして何を語れるかと、私に休暇を与えてくださいました。東洋の魔女のバレーボール、追い風参考になったものの初めて十秒を切った百メートル、朝から日没まで死闘をくりひろげた棒高跳び等、手に入るチケットを探しまわり、沢山の種目を観てまわったものでした。

私は新採以来、陸上部の顧問をしていました。部活動はどの部も一生懸命に活動し、陸上、スキーは県大会入賞、優勝はもちろんのこと、東北大会、インターハイ、国体には毎年のように出場していました。柔道、剣道、体操、野球部の活躍や練習時間の多さには目をみはり、バスケ、バレー、ソフトテニス、卓球の活動風景も思い起こすことが出来ます。

生徒数も多かったせいもあり、体育館などの練習場所は生徒達でひしめきあっていました。現在のように外部へ合宿や練習に行けない環境にあったため、高体連の大会前ともなると不安になり教室に薄べりをつくっていただき、不便な中にも、有意義な合宿をしたものでした。特に朝一番の列車に乗り、米沢の競技場に練習に行くために三時に起き、マネージャーとおにぎりを作り終え、走って列車に飛び乗ったこと等もよみがえります。「同じ釜の飯を喰った仲間」の友情は一生の財産だと思えてなりません。頑張って、頑張り抜いた大勢の先輩たちが小国高校の土台を築いてくれたことを知ってほしいと強く願っています。

現在少子化の波がどんどん押し寄せてきていますが、一生懸命な先生方、それに応えようとする生徒達に一層のご活躍を期待しながら、これからも応援し続けていきたいと思います。

山とガラス

木村　元昭 先生
昭和五十九年～六十二年

小国高校にお世話になったのは、もう四半世紀も前のことであるが、いまだに思い出されることが数多くある。

当時は「べにばな国体」を数年後に控え、小国町が山岳競技の主会場になることが決まっていた。そこで小国高校に山岳部が組織され、山登りが好きだった私は自ら顧問に立候補した記憶がある。山岳部の活動は毎日五㎞のマラソンと柔軟体操を中心としたトレーニングで、月に一度程度近隣の山に登り、夏休み中は飯豊連峰や朝日連峰で合宿を行っていた。個人でも県内の主だった山に登り、私の趣味的な部分でも大変充実していた。

しかし「べにばな国体」が近づくにつれ、競技としての登山を求められるようになり、頭の固かった私はそのことに納得できなかった。そして、国体本番を迎えずに転勤になってしまった。

担任を三年間持たせてもらったが、二年生を持ち上がりで担任した際に、河原で飲酒喫煙しているのが見つかり、二年の男子生徒の半数ほどが謹慎になる事態が発生した。生徒から事情を聞いたり、親から引き取りに来てもらったりと、大変な手間が掛かったのだが、翌日からの家庭訪問は回る軒数も多く大変に難儀した。そんな事が原因か、疲れきった三名の担任団が次々に玄関や窓に追突し、ガラスを破損させたことがあった。不思議に大した怪我を負わなかったが、周りからは大いに同情され、学年団でもアルコール付けで厄を追い払った。特に私のクラスは男子三名しか残らず、指導力不足を実感した次第であった。

体育祭における爆発的なエネルギーと団結力。学校林下刈り作業での勤労意欲。老人世帯への雪堀りボランティア作業で垣間見えた優しさ。今の日本人に欠けている貴重なものが、あの当時の小国高生には確かに満ち溢れていた。

還暦同級会に参加して

小国高校　昭和四十二年度卒　同級会

同級会

前田絹代（昭和四十二年度卒）

平成二十一年十月、新潟県月岡温泉にて卒業後四十二年目で一組から林業科まで、全クラスでの同級会を行いました。林業科担任岡部先生、一組担任馬場先生をお迎えして四十九名での同級会となりました。

卒業して初めて会う友も多く、顔を覚えていても名前を思い出せず、名簿を頼りに隣り合った友に聞き、胸の名簿で確かめて、そうだそうだったと心を弾ませ宴会の始まりです。

話の輪がいつしか、同じクラスになり同じ中学になったりと、宴会時間を延長してもらったにも関わらず、別室に席を移し、再び先生を囲み話が弾みました。部屋の狭さも手伝い熱く語らい、時の経つのを忘れていました。

誰もが同じでしょうが、顔をあわせた瞬間学生の頃に戻り、話しているうちにやっぱり変わっていないな～とほっと気持ちが和らぎ、懐かしい同級生は不思議な力があります。

旧友と楽しい一時

振り返れば思い出満載の学年です。一年生時は、舟木一夫の「高校三年生」が爆発的なヒットでなんと小国高校体育館でのコンサート。一緒に入学した小林二男君が相撲部屋入門、「神幸」と言う四股名で活躍し、その神幸も今回参加してくれました。三年の夏は羽越水害です。陸の孤島となり、町中が消毒の臭い。町民一丸となって復興に汗を流した日々も、私たちの人生の糧になっています。

還暦という区切りの歳、変わらぬ先生の声を聞き、担任の先生全員より、うれしいメッセージを頂き、それに加え出席した友からも「まだまだこれからよ」と背中を押してもらえたのは、私だけではないと思います。

還暦を迎えた同級会

今次男（昭和四十二年度卒）

高校を卒業して四十二年、還暦を迎え定年退職になる節目として、昨年十月十一～十二日の両日、月岡温泉に於いて四十九名の参加をいただき同級会が開催されました。私は幹事として、準備を進めましたが、名前を聞いただけで「どんな人だっけ」と、胸を弾ませながら、楽しく幹事会を進めることが出来ました。

大宴会は岡部先生、馬場先生よりご挨拶を頂き徐々に緊張感がほぐれ、昔話や現況報告などで会話が途切れることはありませんでした。最初は、顔と名前が一致しない中での会話の人もいましたが、話しているうちにタイムスリップしたかのように当時を思い出させてくれました。一人一人の人生はそれぞれ違う喜び、悲しみがあったことと思いますが、還暦の年齢になり再会できたことは、本当に嬉しく思いました。

「寝るのがもったいない。」と言って酒を飲み、昔話や、仕事のこと、家族のこと、同級生ならではの会話が弾み、寝る間も惜しんだ人たちがいたようです。

一泊二日の日程でしたが、また次回の同級会で元気でお逢いできることを祈念したいと思います。

（恩師を囲んで）

おたよりコーナー

思い出

雨宮禮子
（昭和四十一年度卒）

平成二十二年一月十二日、住んでいるマンションのテニスコートにも、昼前から風花が舞い始めました。ひらひらと、途中で消えてしまいます。初雪です。ラケットを持った仲間達は大喜びです。無理もありません。皆さん雪の降らない所で生まれた方たちばかりですから…。

東京で暮らし始めて四十四年、小国に降り積もるあの重い雪が私にとっての雪です。小国という言葉で思い浮かぶのは厳しい冬を乗り越え、山々の峰の雪が溶け出し始め、木々が淡いグリーンに染まる頃、春の息吹を感じさせる「小国の春」です。

浚刺と磨け
深き英知
高らかに響け
ロマンの歌

一年の時、覚えるのに苦労したこの歌がふとした時に浮かんできます。学校挙げての合唱コンクール、ばらばらの気持ちがやがては一つにまとまり、人の心が育っていくという感じを今でも覚えています。

終わった時の達成感とクラスの仲間たちの笑顔、人間として生きていく力を身につけていく時に、自然豊かな厳しい冬、そして、素晴らしい春がやって来る小国の町で暮らせたことがとても良かったと思います。

その時、その場面で出来ること、しなければならないことに自然体で取り組める心の強さ、健康な体を作ってくれたのは小国の風土だと思っています。

遠く離れて暮らしてみて分かる故郷の良さです。

朝日岳、飯豊山に囲まれ、春夏秋冬、はっきりと色分けされた小国町。

生活して行くのは大変ですが自然と共に長生き出来る気がします。

青春の夢薫る
わが故郷

今年の冬は雪が少ないよう遠くから祈ります。

忘れられない言葉

原田裕司
（平成三年度卒）

私が小国高校に入学した時の、校長先生の挨拶を紹介したいと思います。

時は中国の戦国時代。覇権争いをする奏という国と、小さな六つの国があります。蘇秦という人物が、秦に行き六つの国と同盟を結ぶよう説得しますが断られます。小さな国へ出向き、六つの小さな国が合併すれば、秦に負けないくらいの大国になることが出来る。秦に吸収されて、細々とやるか、それとも小さな国なりにイニシアチブを取って先頭を切るか、どちらが良いか。と言うお話でした。

「鶏頭牛後」という言葉はこのお話から生まれたそうです。

なぜ私がこの話をするのか、高校生のあなたたちに考えて頂きたいと思います。

高校生活の中でわからなければ大人になってからも考えて頂きたいと言いました。私は高校卒業後もずっと「鶏頭牛後」という言葉を忘れたことはありません。

私が生活していく中で、これからも忘れることはないと思います。本当に大切なことを教えられたと思います。

小国に住む

伊藤恭広
（昭和五十三年度卒）

昭和五十一年四月、特に勉強が出来るわけでもなかったが、めでたく小国高校に入学することが出来、高校生活を送る事になった。

私は小さい頃から、子守唄のように「やあは大きくなったらセラ（現コバレント）に入るんだ。」と親から言われていて、となれば小国小、小国中、小国高とエスカレーターに乗ることが使命の様なものだった。

高校生活は三年間しかないが、人生最良の友と出合えたのはこの時代であった。小国町内七つの中学校、町外中学校と多くの中学校から入学していた。初めて見る人が沢山いて、話す言葉のニュアンスが微妙に違うことに驚いた。取り分け叶水から来ていた高井君とは色々な意味で繋がりをもち、今でも大切な仲間である。ある時、彼は丈の短い学ランを着てきたのである。当時、ちょっと悪ガキと見える仲間は丈の長い学ランを着ていたので、短い学ランは衝撃的であった。彼は優しい性格もあって男女問わず一目おかれた存在だった事は間違いなく、モテモテだったような気がする。

♪卒業してから、もう何度目の春♪月日が流れ、卒業して三十年以上経ったが、気持ちはあの時のままだと思っている。損得無しに、一生付き合える仲間作りが出来た高校時代に戻れたらなあ…と思う今日この頃である。

陸上部に所属していたのだが、当時の先輩方はインターハイに出場するなど輝かしい成績を残されていた。

自分は特に記録に残した活躍はない。しかし、この時代のトレーニングが後の開花に繋がったのだと思う。また、当時我慢強く指導していただいた先生方に今だから感謝できる。「継続は力なり！」当時の恩師小嶋初恵先生が卒業アルバムに書いてくださったと思う。今でも自分の支えとして心に刻んでいる。

今年は満五十歳を迎える。是非とも半世紀記念同窓会を開きたいと思っている。住所がつかめない皆さんには、何とかこの同窓会報が目に止り小国在住の仲間に連絡を入れてもらえるとありがたい。元気な顔が集まれば昔話に花が咲く事だろう。

みなさんへ感謝

渡邊さくら
（平成十二年度卒）

高校を卒業して、月日がたつのは早く、卒業のとき担任の先生がおっしゃっていた。「二十歳を過ぎると十年はあっという間。」という言葉を思い出します。

高校生の頃の私は、小学生の頃からしていたアルペンスキー競技に打ちこみ、インターハイ、国体、高校選抜などに出場させていただきました。そのなかで辛かったこと、悔しかったことなど沢山ありましたが、その経験が今の自分にプラスになっていると思います。

卒業後は、歯科衛生士になるため、専門学校へ進学しました。社会人になり、小国町に帰ってきたときから、またスキーをしたいと思うようになりました。そして、色々な方との縁や協力があり、練習を重ね、また国体に出場することができました。社会人として出場してみて学生時代とはまた違った楽しさがあり、改めてサポートしてくれる方々の大変さや、応援して下さったかたがたの大変さが分かりました。

私は父がコーチだったのですが、仕事をしながら私の練習をサポートしてくれました。学生の頃からわかっているつもりでしたが、自分が社会人になり、思っていたよりずっと大変だっただろうなと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。それから顧問の先生をはじめ、学校の先生方、横根スキー場の方など色々な周りの方々の協力や応援、本当にありがとうございます。

これからも周りの方への感謝の気持ちを忘れず、人として成長できるよう目標に向かって頑張っていきたいと思います。

そして母校である小国高校がさらに魅力ある学校になるよう祈っています。

首都圏の同窓便り

小国郷人会会長
伊藤康之
（昭和三十一年度卒）

在京同窓会活動は、ここ数年開店休業の状態であります。首都圏には同窓の方が大勢おり、各界でご活躍されており、会合等でご一緒することがよくあります。私は小国町出身者によるふる里の会「小国郷人会」の会長を仰せつかっております。

年一回の総会・懇親会出席者や役員・会員のなかに小国高校の出身者が多く、ふる里を遠く離れている人ほど母校に愛情をもっている事に気づきます。

平成二十二年三月には、「山形県小国郷人会創立五十周年記念誌」が発刊されます。

母校は、昨年創立六十周年を迎え、少子化という社会情勢のなかで、小中高の連携を図る教育は、同窓生・保護者が関心を寄せています。母校のますますの発展と同窓生の皆様の活躍を祈っております。

平成二十年度 総会報告

平成二十年度同窓会総会が昨年五月二十二日（金）午後六時よりみよしや食堂に於いて開催されました。

平成二十年度会計、六十周年記念行事に関わる会計及び決算、二十一年度事業計画案、予算案等が承認されました。又、第二部の懇親会は盛大にかつ楽しく有意義な一夜になりました。

校舎の耐震補強工事行われる

昭和五十三年完成の管理棟校舎。雪国らしくピロティ付きで町内にも高床式の住宅等があまり普及していない時代に建てられました。今年度、国の政策もあり耐震補強工事が行われました。ピロティには鉄のブレスが入りコンクリートの壁ができ、職員室、会議室、図書室などにもブレスが入りました。

来年度は一・二年生の教室棟も耐震補強工事が予定されています。

平成20年度 同窓会会計決算書

収入の部　（単位：円）

科目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増減	摘要
会費	1,000,000	0	1,000,000	939,900	△60,100	振込納入者手数料引金額
入会金	250,000	0	250,000	250,000	0	@5,000×50名
繰越金	49,164	0	49,164	49,164	0	前年度繰越金
繰入金	1,300,000	0	1,325,106	1,825,106	525,106	教育助成金50万円 特別事業基金より繰入25,106円利息
雑収入	836	0	836	74,810	73,974	預金利子 アメリカ短期留学基金
合計	2,600,000	0	2,625,106	3,138,980	538,980	

支出の部　（単位：円）

科目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	増減	摘要
需要費	30,000	0	30,000	11,000	△19,000	役員弁当代・会報発送手伝い生徒弁当代
会議費	200,000	0	200,000	104,922	△95,078	各種役員会諸経費等
通信費	200,000	0	200,000	32,406	△167,594	はがき・切手 20年度会報発送費未納
印刷費	120,000	0	120,000	140,700	△20,700	講演会・総会等チラシ・役員等パンフレット
使用料賃借料	5,000	0	5,000	0	△5,000	
事務室維持費	5,000	0	5,000	0	△5,000	同窓会事務室維持諸経費
慶弔費	10,000	0	10,000	3,611	△6,389	弔電等
教育助成費	300,000	0	300,000	222,185	△77,815	アメリカ短期留学卒業記念品
支部助成費	140,000	0	140,000	88,000	△52,000	町内地区11支部
特別事業基金	0	0	0	0	0	
事務費	50,000	0	50,000	7,675	△42,325	事務局（事務用品等）
事業費	1,510,000	0	1,510,000	1,568,087	58,087	会報発行 60周年事業等
予備費	30,000	0	30,000	0	△30,000	
合計	2,600,000	0	2,600,000	2,178,586	△421,414	

平成21年度 同窓会会計予算書

収入の部　（単位：円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会費	1,000,000	1,000,000	0	年会費@1,000×1,000名
入会金	225,000	250,000	△25,000	卒業生入会金@5,000×45名
繰越金	960,394	49,164	911,230	前年度繰越金
繰入金	0	1,300,000	△1,300,000	特別事業基金より一般会計繰入
雑収入	606	836	△230	預金利息等
合計	2,186,000	2,600,000	△414,000	

支出の部　（単位：円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
需要費	20,000	30,000	△10,000	用紙等
会議費	180,000	200,000	△20,000	各種役員会経費
通信費	300,000	200,000	100,000	はがき・切手 20年度会報発送費込
印刷費	70,000	120,000	△50,000	お知らせ印刷等
使用料賃借料	5,000	5,000	0	
事務室維持費	5,000	5,000	0	
慶弔費	10,000	10,000	0	
教育助成費	300,000	300,000	0	アメリカ短期留学卒業記念品
支部助成費	100,000	140,000	△40,000	町内支部助成
特別事業基金	700,000	0	700,000	特別事業基金繰入（積立）
事務費	30,000	50,000	△20,000	
事業費	450,000	1,510,000	△1,060,000	会報発行等（32万円）花回廊継続事業等
予備費	16,000	30,000	△14,000	
合計	2,186,000	2,600,000	△414,000	

平成二十一年度 会費納入者

平成二十一年度、同窓会会費を納入していただいた会員の方々です。毎年高額納入していただいている方々、間違いなく毎年納入していただいている方々、ありがとうございます。今年度納入出来なかった方も、次回には納入下さいますようお願いいたします。皆様から納入いただいた会費は、同窓会として後輩たちがより良い学習環境を整えるように有効に活用させていただきます。

大口納入者
（　）内は卒業年度

三十一口　三万千円
遠藤　信義（33）
二十口　二万円
佐藤　祐一（31）
十一口　一万千円
後藤　哲美（25）
後藤　輝雄（31）
近　　侃（39）
川崎　秀樹（43）
十口　一万円
飯沢喜智雄（29）
佐藤　静雄（30）
田中　達男（33）
安部新太郎（34）
八口　八千円
渡辺　競（31）
六口　六千円
山下　富子（40）
五口　五千円
小林　寿（26）
永井　主計（27）
高橋　榮子（35）
金田　輝義（36）
高橋　重松（36）
齋藤　詔一（36）
高橋　重松（36）
近　　光正（37）
須貝　恵吉（39）
金　　邦夫（40）
善木しのぶ（41）
（故善木周吉氏の奥方）
栗田　寛美（42）
佐藤　義昭（47）
伊藤　忠昭（53）
四口　四千円
島貫　満（32）
三口　三千円
船山　重吉（31）
須貝　タミ（31）
田村　浩（35）
鈴木　春洋（35）
栗田　金雄（36）
羽田みえ子（40）
見川　文雄（42）
横山　修二（42）
木村　三郎（43）
渡部　和夫（50）
二口　二千円
佐藤　けい（27）
岩本　益子（29）
今　　新隆（29）
木村　　守（30）
遠山　雅晴（33）
加藤　喜一（34）
仁科　光悦（34）
中村　永大（37）

昭和25年度卒業（第二回）

小山　正男（37）
馬場　一恵（39）
神保たえ子（41）
丹　四郎（42）
鈴木　智（46）
坂上　春美（61）
飯沢　利雄
井上　博
加藤　貞雄
阪井　敏行
須貝　宏
宮田　末吉
渡部　昭三

昭和26年度卒業（第三回）

安部　周次
木村　芳雄
佐藤　確彌
塚野　隆
保科　四郎
宮崎トミ
渡部昭七
渡部　孝治

昭和27年度卒業（第四回）

安部　光子
小野　太多男
佐藤　歌子
佐藤　和彦
重川　文子
高橋　吾郎
角田　典子
松井　参次
三井　本
渡辺　鉄雄

昭和28年度卒業（第五回）

江口　百合子
遠藤　芳廣
笹　　啓了
小出　守
小池　清隆
加藤治郎右エ門
佐藤　石男
佐藤　秀吾

島貫　久寿
仁科　吉男
松田　雪子
茂木　八重
伊藤　鋼英
加藤　辰巳
川上　十太郎
佐藤　規一郎
佐藤　末治
佐藤　修造
竹田　啓次
原尾　敏子
渡辺　英雄

昭和29年度卒業（第六回）

安達　マリ子
安久　幸夫
伊藤　節子
伊藤　博雄
井上　眞典
後藤　邦雄
今　　啓次郎
金　　善千弥
佐藤　來
曽根原　静雄
高橋　恒子
高橋　忠
丹　　竜三郎
塚原　たま
富樫　忠義
野本　洋三
保科　一雄
矢部　文雄
山下　エイ子

昭和30年度卒業（第七回）

宇津木　百合子
遠藤　末治
今　　謙悦
齋藤　康雄
佐藤　七郎
佐藤　哲
佐藤　マス
櫻井　富美
塩川　惣一
塚野　信
舟山　隆司
松原　寅四郎
渡辺　健三
渡辺　令三郎
渡部　一郎

米野　貞雄
伊藤　義広
伊藤　洋子
大冨　光一
金子　正則
監物　憲二
木戸　忍
小池　オミヨ
小山　勇一
斎藤　勲
佐藤　靖子
嶋田　恒子
須藤　源一
瀬川　洋子
高橋　親美
高橋　ユウ子
立田　禮子
田原　由紀子
平田　百合子
平田　健喜
保科　健
村上　禮子
村田　鐵巳
森下　茂子
矢部　昭蔵
吉田　ふさ子
渡辺　一郎

昭和31年度卒業（第八回）

安部　勝子
伊藤　康之
伊藤　ヒロ子
伊藤　志郎
今　　厚生
小林　昇
杵渕　洋一
鹿島　よし子
佐藤　栄一
佐藤　好美
丹　　利美
秘田　好信
松永　純代
森澤　八ツエ

昭和32年度卒業（第九回）

伊藤　節子
伊藤　博雄
井上　眞典
後藤　邦雄
今　　啓次郎
金　　善千弥
佐藤　來
曽根原　静雄
高橋　恒子
高橋　忠
丹　　竜三郎
塚原　たま
富樫　忠義
野本　洋三
保科　一雄
矢部　文雄
山下　エイ子

昭和33年度卒業（第十回）

伊藤　廣子
遠藤　美智雄
大久保　勝夫
川口　かつの
草場　タツ子
國井　洋二
後藤　一雄
齋藤　實
佐野　初男
高橋　よし子
反保　節子
羽田　正己
本橋　博治
山田　辰美
若尾　信子
渡邊　博

昭和34年度卒業（第十一回）

五十嵐　武子
石井　幸子

伊藤　義広
伊藤　洋子
大冨　光一
金子　正則
監物　憲二
木戸　忍
小池　オミヨ
小山　勇一
斎藤　勲
佐藤　靖子
嶋田　恒子
須藤　源一
瀬川　洋子
高橋　親美
高橋　ユウ子
立田　禮子
田原　由紀子
平田　百合子
平田　健喜
保科　健
村上　禮子
村田　鐵巳
森下　茂子
矢部　昭蔵
吉田　ふさ子
渡辺　一郎

昭和35年度卒業（第十二回）

飯田　武夫
五十嵐　昭三
小笠原　八郎
加藤　順二郎
加藤　登志子
川合　三郎
川上　光男
杵渕　キヨ子
京野　ヨシ
栗田　金男
小嶋　靖雄
小嶋　志郎
近藤　喜久子
佐藤　敏美
塩野　敏雄
鈴木　幸子
田村　勝世
丹　　竜七郎

徳武　清美
西沢　洋子
平田　久子
平田　俊作
松尾　二三子
松尾　修平
松原　幸夫
松本　健治
三浦　のり子
米澤　晴子
李　　光照
渡邊　武治

昭和36年度卒業（第十三回）

伊藤　石男
岩井　志ま子
亀井　イチ
神田　初子
小関　茂子
近藤　勝秋
斎藤　喜蔵
斎藤　武
佐川　マキ子
鳥潟　忠子
高橋　孝壽
高橋　三重子
長本　日出子
長谷部　昇
羽田　勝男
舟山　侑
山口　美穂子
渡部　勝男
渡部　金夫

昭和37年度卒業（第十四回）

伊藤　六郎
奥野　美子
川上　光男
小嶋　英昭
小林　洋子
佐藤　二男
佐藤　勇次郎
佐藤　弘
長谷部　誠一
野口　紀子
原川　昇治

五十嵐　民雄
伊藤　きぬ子
入君　令子
金子　正則
斎藤　八保子
斎藤　吉雄
佐竹　タミ子
佐藤　ヨシ子
佐藤　貞夫
佐藤　栄
志田　幸次
神保　陽子
高橋　三雄
舟山　信彦
益田　勝雄
渡部　広宣

昭和38年度卒業（第十五回）

市村　典夫
石田　一雄
新井　洋子
梅津　弘己
遠藤　良男
小原　富子
木村　信広
木村　明子
小池　信彦
小柴　治
斎藤　則子
斎藤　亥三郎
佐藤　勉
佐藤　昭子
佐藤　勝栄
清野　正三
高橋　輝雄
津野　ふみ子
坪川　民主
根本　貴子
原田　憲一郎
藤森　民子
舟山　一毅
舟山　
安部　昌晴
安部　武男
伊藤　和弘
伊藤　善吉

昭和39年度卒業（第十六回）

入君　令子
金子　正則
岸川　よしえ
栗田　アヤ子
小金井　榮子
小山　幸雄
斎藤　美惠子
佐藤　豊美
杉山　恵
瀬水　照男
武田　六郎
多田　葉津恵
戸部　民子
内　　クニ子
橋本　佐
長谷部　毅
舟山　綾
舟山　房夫
舟山　守夫
舟山　武彦
益田　淑郎
山田　隆子
渡辺　ヨシ子
渡部　道雄

昭和40年度卒業（第十七回）

後藤　咲子
後藤　美代子
近　　建喜
今　　正美
今　　新一郎
今井　旗江
櫻井　清
佐藤　光栄
新国　博
須貝　道雄
丹羽　雄
宮下　洋子
盛田　和子
八木　公子
米野　和扶
和田　正男
渡部　洋子

井上　博夫
片桐　修
加藤　隆芳
金子　三千栄
金子　幸尋

昭和42年度卒業（第十九回）
安部俊雄　伊藤謙二　井上みと子　今井文子　大野光子　駒澤堅一　今野孝男　今野ときよ　斎藤政志　斎藤みち子　佐藤秀一　佐藤徳美　嶋崎紀子　菅原文雄　瀬水重実　高橋公二　高力博子　丹利広　西原初子　野沢ヒデ子　平田雪子　舟山美穂子　舟山享二　森下美江子　渡辺由美子　渡辺節子

昭和43年度卒業（第二十回）
伊藤金栄　伊藤和夫　伊藤善一　伊藤久雄　梅津武吉　遠藤仁　大場みどり　岡村俊春　奥田雪子　加貝つや子　後藤京子　後藤広仲　斎藤和栄　佐藤博実　相馬宣夫　塚原美枝子　長岡文子　能條

昭和44年度卒業（第二十一回）
舟山昭三　本間正美　丸山民子　宮坂文仁志　米野慎吾　渡辺茂

昭和45年度卒業（第二十二回）
小山寛二昇　今斎敬子　斎藤正二　佐藤徹雄　塩川徹久　杉山正雄　瀬古綾子　高野陽子　舟山博雄　舟山好彦　益田泰彦

昭和46年度卒業（第二十三回）
市川芳巳　伊藤幸治　川上光二　小池克昌　金藤勝隆　斎藤義昭　佐木清子　鈴宮幸子　本田江津夜子

昭和47年度卒業（第二十四回）
秋山登枝子　伊藤清美

昭和48年度卒業（第二十五回）
片桐英二　川上和彦　菊池のり子　木戸健治　木村博子　小池智子　後藤恵一子　斎藤悦子　斎藤重則　佐藤武彦　高橋幹雄　中村美智子　舟山武久　本間輔明　伊藤里子　伊藤久雄　小池真知子　今信彦　斎藤恭子　斎藤三好　舟山孝夫　会田信明　伊藤澄子　河村広治　斎藤利昭　佐藤敏弘　佐藤勉　安部和則　伊藤和行　鹿嶋義隆　金成敬子　今薫正　佐藤洋一　高野科友夫　仁美　舟山一男　米野悦

昭和49年度卒業（第二十六回）
会田信康　伊藤澄子　河村広治　斎藤利昭　佐藤敏弘　佐藤勉　舟山孝夫　斎藤三好　斎藤恭子　今信彦　小池真知子　伊藤里子　伊藤久雄　佐藤武彦　斎藤重則　斎藤悦子　斎藤恵子　後藤恵一子　小池智子　木村義弘　木村博子　木戸健治　菊池のり子　川上和彦　片桐英二

昭和50年度卒業（第二十七回）
安部和則　伊藤和行　鹿嶋義隆　金成敬子　今薫正　佐藤洋一　高野科友夫　仁美　舟山一男　米野悦

昭和51年度卒業（第二十八回）
安部桐美子　伊東明美　伊藤文夫　勝見正敏　河村キヨ子　木村順一　小嶋公子　今きよ子　佐藤之義　高橋久明　丹沢ひとみ　舟山武弘　原田千鶴子　舟山宏悦　梅津房子　小野好美　佐藤順子　塚原里美　桐生明子　安部紅仁子　栗田ゆり　今和彦　佐々木保江　下山睦美　舟山富栄　小野泰浩　今藤源市　斎藤権三代治　斎藤昌幸　斎藤勉　高橋義彦　塚原ひとみ　舟山浩実　舟山忠広

昭和52年度卒業（第二十九回）
梅津房子　小野好美　桐生明子　佐藤順子　塚原里美　丹沢ひとみ　舟山武弘　安部紅仁子　栗田ゆり　今和彦　佐々木保江　下山睦美　舟山富栄　小野泰浩　今藤源市　斎藤権三代治　斎藤昌幸　斎藤勉　高橋義彦　塚原ひとみ　舟山浩実　舟山忠広

昭和53年度卒業（第三十回）
安部紅仁子　栗田ゆり　今和彦　佐々木保江　下山睦美　舟山富栄

昭和54年度卒業（第三十一回）
小野泰浩　今藤源市　斎藤権三代治　斎藤昌幸　斎藤勉　高橋義彦　塚原ひとみ　舟山浩実　舟山忠広

昭和55年度卒業（第三十二回）
安部美知彦　伊藤康広　伊藤寛美　片倉大三郎　栗原一壽　齋藤友美雄　相馬昌佳　新野度浩志　梅津知則　斎藤美弥子　佐藤忠明　須貝篤志　仁科仁司　舟山勉　舟山昭仁　横井洋一　渡部恭久

昭和56年度卒業（第三十三回）
梅津知則　斎藤美弥子　佐藤忠明　須貝篤志　仁科仁司　舟山勉　舟山昭仁　横井洋一　渡部恭久　笠原章子　日出男　齋藤智美　佐藤香　島貫久美子　須貝敦之　鈴木幸二　安部充宣　安部照美　桜井洋子　佐藤雅子　鈴木のり子　高橋留美子　斎藤美和　桜井由幸　佐藤晴彦

昭和57年度卒業（第三十四回）
笠原章子　日出男　齋藤智美　佐藤香　島貫久美子　須貝敦之　鈴木幸二

昭和58年度卒業（第三十五回）
安部充宣　安部照美　桜井洋子　佐藤雅子　鈴木のり子　高橋留美子

昭和59年度卒業（第三十六回）
斎藤美和　桜井由幸　佐藤晴彦

昭和60年度卒業（第三十七回）
伊藤広美　大和田二美代　片桐良子　後藤悦子　斎藤美千代　佐藤靖夫　塩川秀夫　羽田昭祥　益田尚美　佐藤淳一　須貝美和子

昭和61年度卒業（第三十八回）
安部秀子　安貝繁　今信彦　今由美　佐藤一幸　長濱美知　渡部泰保　渡部保　辻里美　松田牧子

昭和62年度卒業（第三十九回）
辻里美　松田牧子

昭和63年度卒業（第四十回）
安部誓司　安部光明　齋藤美和　鈴木敏　神保潤一　栗田敏　伊藤竜一　佐藤豊勝

平成元年度卒業（第四十一回）
舟山早苗

平成2年度卒業（第四十二回）
井上優子　木村さやか　小林誠　小松祐子　佐藤紀之　佐藤聡　佐藤めぐみ

平成3年度卒業（第四十三回）
今和博　佐藤和広　高橋恵美　原田裕司　須貝ルミ　塚原路恵　舟山恵

平成4年度卒業（第四十四回）
小林かおり　関本淳　佐藤あゆみ　安部奈緒子　河内めぐみ　斎藤達也　高野和徳　塚原康子　舟山泰則　渡部淳　塩川さとみ　高野里奈　馬場貴久　馬場智久　舟山嘉代

平成5年度卒業（第四十五回）
安部奈緒子　河内めぐみ　斎藤達也　高野和徳　塚原康子　舟山泰則　渡部淳

平成6年度卒業（第四十六回）
栗田敏　神保潤一

平成7年度卒業（第四十七回）
伊藤竜一　佐藤豊勝

平成8年度卒業（第四十八回）
塩川さとみ　高野里奈　馬場貴久　馬場智久　舟山嘉代

平成9年度卒業（第四十九回）
舟山高政

平成10年度卒業（第五十回）
塩川明実

平成12年度卒業（第五十二回）
加藤信　木村麻美　斎藤孝朗　竹田一平　渡邊さくら

平成13年度卒業（第五十三回）
永井めぐみ

平成14年度卒業（第五十四回）
本多やよい

平成15年度卒業（第五十五回）
佐藤由衣　高野裕樹

平成16年度卒業（第五十六回）
駒澤瑠美　本多大二郎

平成17年度卒業（第五十七回）
塚原望

平成18年度卒業（第五十八回）
伊藤さゆり　今貴広　斎藤樹里　鈴木淳子　高橋隼人

平成20年度卒業（第六十回）
斎藤莉子

（平成二十二年二月十五日現在）

平成22年度総会の案内

平成22年度総会を下記日程にて行いますので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

○期　　日：平成22年5月21日(金)
○時　　間：午後6:00より
○会　　場：きくよし亭
　　0238-62-3322
○会　　費：3,000円
○申し込み：小国高校事務局
　　TEL(0238)62-2054
　　FAX(0238)62-2055

有言実行の誓い

生徒会長　髙橋昌史

私は昨年度副生徒会長をやっていて、今年度の小国高校を、より良い学校にしたいと思い、生徒会長になることを決意しました。

私は新生徒会長として、日々の生活の向上に力を入れ生徒全員に規則正しい生活を送ってもらうように努力したいと思います。

「ルールを守って初めて自由がある」とよく言われます。私はそのとおりだと思います。自由の意味を間違って認識していて、「人に迷惑をかけなければよい」と思っている人もいるかもしれません。しかし、社会には必ずルールがあり、それを破れば責任を取らなければなりません。責任を取るということは、自由を奪われることにつながります。学校生活にもルールがあります。充実した学校生活を送ってもらうために、ルールを守ってほしいと考えています。そのためにも、まずは私自身がしっかりと日常のルールを守り、模範となりそこから色々と発信したいと思います。

これからの新生徒会の活動をより活発にし、新スローガンである「奮励努力」のもとに、何事にも積極的に取り組む小国高校を目指していきたいと思います。歴史と伝統ある小国高校の生徒であることを誇りとし、確かな足跡を刻んで生きたいと思います。

21年度進路状況

小国高等学校進路指導課
（平成22年2月18日現在）

進路決定状況

	進路先	男	女	計
進学	大学	5	1	6
	短期大学	3	7	10
	専門学校等	2	6	8
	大学校等	1	0	1
就職	西置賜	12	4	16
	県内（西置賜外）	0	0	0
	県外	0	2	2

進学先

【大学】
山形大学工学部情報科学科Aコース／山形大学工学部機械システム工学科Aコース／東京工科大学メディア学部／東北公益文科大学公益学部(2)／宮城学院女子大学学芸学部人間文化学科

【短期大学】
山形県立米沢女子短期大学健康栄養学科・英語英文学科／山形短期大学総合文化学科(2)・こども学科・人間福祉学科／羽陽学園短期大学幼児教育科／新潟工業短期大学自動車工業科(2)／相模女子大学短期大学部食物栄養学科

【専門学校等】
山形美容専門学校／三友堂病院看護専門学校／デジタルアーツ仙台ＣＧクリエーター科／新潟理容美容専門学校美容科／国際調理製菓専門学校／日本福祉医療専門学校子ども保育学科／東日本航空専門学校航空機整備科／仙台ＹＭＣＡ国際製菓学院製菓衛生士科

【大学校等】
新潟国際自動車大学校

就職先

【西置賜】
コバレントマテリアル㈱小国事業所(3)／日本重化学工業㈱小国事業所(3)／荒川興業㈱／有限会社豊鳴石英硝子／小国町森林組合(2)／安部工業株式会社／マルコンデンソー株式会社／マイクロソリューション株式会社山形事業所／小国食糧株式会社／株式会社レベック／株式会社山形テック

【県外】
ブルボングループ北日本村上食品株式会社／冨双合成株式会社

21年度各種検定合格者

今年度の簿記実務検定一級合格者は小国高校で初めてのことです。

アスモにてチャレンジショップの生徒達

ワープロ実務検定2級合格者

2年1組
宮野 友里恵

2年2組
島貫 成美

3年2組
渡辺 あすか

ワープロ実務検定1級合格者

1年1組
見川 尚輝

2年1組
林　洸也

3年2組
渡部　陣

簿記実務検定合格者

2級 2年1組
林　洸也

1級 3年1組
桐生 和枝

漢字検定2級合格者

2年2組
島貫 成美

2年2組
伊藤 祥希

ワープロ実務検定2級合格者

1年1組
舟山 成美

1年1組
菅　千尋

2年1組
渡部　剛

事務局だより

平成四年度入学者から小国高校の制服が変わりました。べにばな国体の開催が決まり、小国高校に山岳部が誕生しました。という内容の会報を発行して以来十八年目になります。二十年目には記念特集号を発行したいと考えています。皆様のご寄稿をお待ちしています。

（駒澤）

〈編集委員〉
栗田　金男・神保たえ子
駒澤　堅一・原田千鶴子